

中国観光客の長崎観光誘致 ～ 中国研修員の目線 ～



客員研究員 尚 磊
(上海市交通運輸・港口管理局
合作交流処 副主任科員)

去年7月に、長崎海外技術研修員として上海から派遣され、長崎経済研究所で7か月間の研修生活を送りました。いろいろな専門家と出会い、感じたこと、学んだことがたくさんあります。長崎ならではの魅力を実感することができたことから、知識不足ながらも、上海などの中国都市の観光客誘致について中国人目線で皆様とシェアしたいと思います。

1. 長崎への中国大陸観光客の現状

長崎は、壮大な自然風景から、歴史が長い人文遺跡まで、豊富な観光資源を持っています。県内では、従来から観光を主要な産業と位置付けています。長崎県観光統計によると、2012年長崎県の観光消費額は2,869億円に達し、対前年6.6%増えました。その中で、クルーズ客船の観光客を含め、中国（中国大陸を指す、以下全部同）観光客は、近年以来増え続けています。外国人宿泊客実数は、国・地域別にみると、中国は1万6,347人（2012年）で韓国、台湾を次いで3番目となりました。しかし、外国人の半数を占める韓国の14万5,228人、2番目の台湾の8万506人と比べると、その数字はまだ少ない状況です。また、2013年に中国からの出国者数が9,000万人（中国国家旅遊局）を突破したこと、2013年には訪日旅行中国人数が131万4,500人（日本政府観光局）となったことを考えると、これから長崎の魅力を発信してもっと多くの中国観光客を誘致することは、大いに期待されます。

2. 個人観光客の増加傾向

現在、中国観光客の訪日ツアーは、東京圏、大阪圏、日本を代表する富士山周辺の数県に主に集まっているのが実情ですが、北海道と沖縄は、人気旅行先として注目されています。北海道を

ロケ地とする2009年の正月映画「狙った恋の落とし方」の話題性により、北海道の知名度と来訪中国観光客数が急上昇し、人気先として定着しつつあります。沖縄は、2011年7月から、中国観光客を対象に3年間有効の観光マルチビザ発給をスタートしたことから、躍進しました。

その中で注目すべきなのは、中国に向けての個人旅行ビザの緩和による個人観光客の増加ということです。2009年7月、北京市、上海市、広東省にある日本大使館、総領事館の査証管轄地域の住民を対象に、日本への個人観光ビザの発給が開始されました。そして、2010年7月から、これは中国日本領事館が設けられた全ての都市に拡大され、ビザ発給要件も大幅に緩和されつつあります。それまで年収25万元以上の富裕層に限って中国人個人観光ビザを発給してきましたが、その措置で発給資格は年収3～5万円の所得者に大幅に緩和され、対象者は4億人以上となる見込みです。

中国国家観光局の統計によると、2011年の中国海外旅行者の70%以上が旅行会社のツアーに参加していません。中国観光研究院と携程旅行社が共同で、「中国個人旅行発展レポート（2012－2013）」を発表し、中国は海外個人旅行の時代を迎えていると指摘しました。伝統的な団体観光ツアーに比べ、個人旅行は現地に滞在する時間が長く、出かける頻度も多く、消費力も高く、レジャー色が強いのが特徴で、さらに自由に現地に踏み込んで風土や人情を体験しようとしています。レポートによると、上海と北京の個人旅行は早くから盛んになっており、ほかにはアモイ、武漢、天津、重慶、瀋陽、青島などの都市の個人旅行者も比較的多いということです。

日本政府観光局によると、中国個人旅行は、すでに中国訪日人数の28.5%（2012年）を占めるようになりました。旅行ルートやニーズが多様化し始めていることから、これまで主流であった東京、大阪などゴールデンルートへのツアーが、それ以外の観光地を訪れる個人旅客へとシフトし始めています。中国・人民日報社のニュースサイト“人民網”によると、北海道と沖縄を選んだ中国人の多くは、北京、上海、広州など大都市の出身者が多く、大都会は彼らにとって特に珍しくはないため、風光明媚な景色や豊かな自然を楽しめる場所を旅行先に選ぶ傾向が強いということです。

自然の美しさに恵まれ豊かな観光資源がある長崎は、地理的に近くて、低予算で行き来できるだけではなく、短時間で気軽に楽しめる地域だといえます。今後は、その気軽さを生かし、旅行支出額の多い中国観光客を上手く取り込むことができれば、地域の活性化に繋がると考えられますので、交通手段、宿泊施設、観光スポットの設計などを含め、個人旅行者の利便性を向上させることが重要でしょう。

3. プロモーション

中国人にとっては、長崎は被爆地のイメージが強く、特に今の若者は、本を読まず、ツイッターやタブレットなどを使い過ぎており、断片的な情報が好まれています。恥ずかしながら、私も2011年に毎日通勤していた上海地下鉄1番線の中で、ハウステンボスのCMを見て初めてそのリゾートを知って、いつかそこに旅行することに憧れていました。去年長崎へ参り、軍艦島や島原、対馬などを見学でき、すごく感動した体験でした。一緒に研修に来た上海テレビの友達も、「島原城は、大阪城に負けていないし、周りには昔の侍の家までよく保存しているのに、中国人の中で知名度が高くない、もったいないなあ」と言いました。

長崎観光客誘致には、計画的、継続的なプロモーションを行うことが不可欠でしょう。プロモーション活動は、旅行会社との共同広告、即売会、テレビ番組や新聞記事広告、旅行ツイッター、口コミサイトなどオンラインでの宣伝など、さまざまな形があります。中国での知名度向上、高付加価値の旅行商品の造成は、一朝一夕には成し遂げられないものですが、すぐに目立った効果が見えなくても、「いつか長崎に行ってみたい！」という思いに繋げることができれば、頑張った甲斐があると思います。現在の中国は、「不確実性の高い時代」と言われ、変化が激しく、想定外や解のないことが時々現れます。地元のニーズ多様化に柔軟且つ迅速に対応して、消費者、マスメディア、旅行会社三つの対象に、「長崎」を心から喜んでもらえるブランドとして認知してもらうこと、話題性を作るよう地道かつ大胆な行動を続けることは大切な課題だと考えています。

4. 長崎における中国伝統的な特色

この文章を書いている2月は、ちょうどランタンフェスティバルが開催されています。冬の長崎市においては、ランタンフェスティバルが国内外から観光客を誘致する目玉イベントになりました。特に印象深いのは、ランタンフェスティバルを通じて、現在の中国より中国らしい雰囲気を体得できるということです。あちこちで彩のランタンと伝統的な要素を取り入れたオブジェが飾られ、会場では豚の頭を祭った台を設置し、龍踊り、雑技、獅子舞、皇帝皇后パレードなどのイベントも行われ、長崎市に居ながら唐時代にいるような錯覚を起こしました。伝統を極める長崎と違って、今の中国灯会には、現代の要素を取り込んだデザインが好まれ、昔の神話人物を表現する時もアニメ風になる場合が多く、時代の変化を追求し、繁栄を表す言葉が多く展示されています。そして、長崎に来る前、こんなにたくさんの中国伝統行事が長崎にあるのは知りません

長崎2013年中国関係行事表

行事名称	旧暦月日	新暦月日	摘 要
春節	1 月 1 日	2 月10日	中国正月
関聖帝君飛昇	1 月13日	2 月22日	崇福寺関帝祭
元宵節	1 月15日	2 月24日	燈籠祭 新地町 崇福寺 唐人屋敷
福德正神千秋	2 月 2 日	3 月13日	唐人屋敷土神祭
観世音菩薩仏辰	2 月19日	3 月30日	唐人屋敷観音祭
崇福寺清明節	——	4 月 5 日	崇福寺展墓
国際墓地清明	3 月 2 日	4 月11日	国際墓地展墓
天上聖母聖誕	3 月23日	5 月 2 日	崇福寺媽祖祭 唐人屋敷媽祖祭
関聖帝君聖誕	6 月24日	7 月31日	崇福寺関帝祭
			唐人屋敷関帝祭
普度蘭盆勝会	7 月26日	9 月 1 日	施餓鬼 (中国盆)
	7 月27日	9 月 2 日	
	7 月28日	9 月 3 日	
大成至聖孔聖誕	9 月28日	9 月28日	孔子生誕2564周年祭
*長崎ランタンフェスティバル 2月10日(春節) - 2月24日(元宵節)			
*過九節 3月10日(旧暦1月29日)			

資料：筆者まとめ

でした。

中華街と言えば横浜や神戸が規模も大きく有名です。しかし実は、横浜や神戸よりずっと前の1562年には、最初に中国人が長崎に渡来して、多くの中国人が住みついた都市になりました。江戸時代鎖国政策の下で出島が唯一の開港地だった長崎に、多くの中国人が渡ってきて、日本最古の中華街ができ、中国の高僧が開いた崇福寺が立てられました。今も中国文化が、長崎の街のあちこちに溶け込んでいます。長崎は、中国では味わえない「中国の伝統的な特色」を全面に出すことが、セールスポイントになり、中国の雰囲気強調してアピールすれば、伝統文化が好きで、日本における華僑文化に興味を持っている中国観光客にとっては、魅力的な観光地であることが伝わるのではないのでしょうか。

5. 買い物

日本政府観光局が1月17日に発表した推計値によると、昨年1年間で訪日した外国人客数の国別トップは韓国で245万人、2位が台湾で221万人、3位が中国で131万人ですが、国籍別に旅行支出額を見ると、昨年10月の観光庁統計によれば、円安を背景に日本滞在中の中国観光客は韓国人の約2.6倍に相当する一人平均17万2,696円となっており、猛烈な消費パワーでした。

長崎に半年間住んでいて、非常に居心地がよい町だと感じており、個人的には買い物には特に不便がないですが、普通の中国観光客が好きなブランド品、国際電圧の電気製品、免税品については、限界があると思います。長崎の中国人観光客を取り扱う旅行会社のツアーでは、ほとんど鳥栖のアウトレットと福岡を買い物先として取り入れます。銀聯カードプラス中国旅行ビザを提示する場合は、免税と割引で10%近く安くなりますので、観光客にとっては、お得な印象を与えています。

そして、「銀聯カード」決済は、浜町などで拡充され、人民元の両替取扱店舗を十八銀行と親和銀行に拡大しましたが、個人的に不備の時に現金を両替したい時、ちょっと不便なところを感じました。銀行のカウンターで両替すると、平日の午後3時までと時間が決まっており、両替手数料が1元約1.6円と10%を超え、高いです。5万円の場合、手数料が5千円ぐらいになります。この前、銀聯マークのついているATMを使って現金を下ろすと、635円の手数料だけで済みました。しかし、そのようなATMは、長崎市内で浜町の1箇所しか見つかりませんでした。もしコンビニのATMでも銀聯カードを取り扱うようになれば、もっと便利になると思います。

これからもっと多くの中国観光客が長崎へ行って長崎の魅力を楽しめることを心より期待しております。この7カ月間、優しく、癒してくれる長崎で素敵な思い出がたくさん残っています。上海から長崎まで飛行機1時間半程度で非常に近いので、私心ですが、もしビザがもっと緩和できるようになれば、週末を利用して家族や友達と一緒に長崎の魚を食べに来たらいいなあと思います。